

～日本の食文化を守る～

H26

35

本物の本場

枕崎
鯉節

枕崎水産加工業協

枕崎
鯉節



枕崎水産加工業協同組合

枕崎青鯉会

(財)食品産業センター認定

本物の本場

厳選原料・伝統の味
www.honbamon.jp

※ゆでる小屋→いでの小屋(枕崎弁)→いでごや

一年間を振り返り

青鯉会会長 久保 智英



会員並びに、関係各位の皆様、今年一年間青鯉会の活動にご理解ご協力頂き誠にありがとうございますでした。

微力ながら、青鯉会会長という大役を任せられ、私なりに何とかこまめです。

これも会員の皆様のご理解とご協力のおかげだと感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。

今年の主な活動としては、「枕崎鯉節」の広報活動として毎年恒例の枕崎港まつり「きばらん海」での鯉節料理の無料配布、削り体験を行ってまいりました。

食育活動では、市内の幼稚園、保育園、小学校バザーを中心に活動して参りました。

なかでも子供達の目の前で鯉を捌き、鯉節になるまで製造工程を説明し、自分達の手で削ってもらい茶節

にして飲んでもらいました。

又、子供達の父母さんにも出席していただき、加工組合職員（中釜さん）に、出汁の取り方そして「はなちゃん味噌汁」のDVD鑑賞をしていただき、出汁のおいしさ、食の大事さを説明していただきました。「はなちゃん味噌汁」の映画化が決定しております。

毎年食育活動をしておりますが年々、反響が大きくなるのを実感しております。

一月には全鯉青安房大会、研修旅行、食育活動など計画しておりますので、今後も皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、我々の鯉節業界は消費低迷と、鯉・青物の原料価格高騰や急激な価格変動・魚質などいろんな問題に悩まされ、厳しい状況が続いております。

こういう時こそ、品質向上、創意工夫し美味しい「鯉節」を提供して行きますよう。

そのためには、みなさんの英知と若い力で業界を盛り上げていきましよう。

青鯉会、鯉節業界の更なる発展を祈念いたしまして、挨拶と致します。



「枕崎鯉節」で地域を元気に

枕崎水産加工業協同組合 代表理事組合長



西村 協

青鯉会会員の皆様方には、かねてより組合事業や鯉節普及活動等の多方面において、お力添えをいただきましたこと心から敬意を表します。また、青鯉会の活発な事業展開によって、「枕崎鯉節」も手応えある周知力が見られるようになり、あらためてお礼を申し上げる次第です。

さて、我々の業界を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、経済のグローバル化とともに原料確保が非常に厳しくなっています。特に、水産資源の管理が世界的な課題となっておりますが、魚の消費は世界規模で飛躍的に伸張しているため、水産物の争奪戦は益々激化するものと考えられます。そんな中、今年は海外まき網漁業協会の中前会長を招いて、カツオ資源の展望等について講演をいただき、意見交換等による情報の共有を図ってきました。これからは、関係機関がひとつになり、お互いが今何をやらなければならないかを考え行動することが大切です。

おりしも、昨年末に日本の食文化がユネスコの無形文化遺産に登録され、日本が誇る出汁文化が大きく注目されています。更には、イタリアのミラノで開催される万国博覧会で、鰹節のプロモーションを行うことになっており、きちんとした日本の食文化を世界に発信する良い機会だと思えます。食の多様化は国内だけでなく世界的な広がりを見せており、鰹節もグローバル食品として取扱いされることが予想されるため、将来を的確に見据えた活動も必要になってきます。この様な時だからこそ「枕崎鰹節」の製品づくりに日々研鑽し、更なる品質向上とブランドの確立に努力することが重要であると考えます。

また、枕崎市と稚内市が連携して取り組んでいる「コンカツプロジェクト」も大きな話題となり、地域の活性化を担っています。このように皆様の活動を含めた取組が、地域経済の活性化や地域への貢献という形で高く評価され、南日本新聞社から平成二六年度の経済賞を受賞する嬉しい出来事もありました。

これからも、日本の食文化に欠かせない美味しくて安全安心な「枕崎鰹節」をつくり、名実とともに日本の産地枕崎を活力ある地域にするため、ご活躍されることを心から祈

念いたします。

最後に、来る年が青鰹会の皆様方にとって、良い年となり業界が益々繁栄することを祈り申し上げます。挨拶といたします。

青鰹会・「枕崎鰹節」の

更なる発展に期待



枕崎市漁業協同組合
代表理事組合長
上野 新作

青鰹会会員の皆様には、かねてより「枕崎鰹節」のPRや様々な食育など多岐に亘り活動されていることに対し心から敬意を表します。特に枕崎市内の保育園園児の皆さんを対象とする鰹節食育活動は、一見地味ながら、和食の基本であります「出汁の文化」を継承し、世界へその良さを広める人材育成となり、ひいては枕崎の産業経済の中心であります鰹節業の良き担い手となるやもしれません。今後とも、この食育活動を一日でも一年でも長く続けられることを願うものです。

昭和五十年までは、枕崎・坊津・山川には三十隻を超える「遠洋一本釣鰹船」が稼働し、乗組員の数も昭和四十年代前半には千三百名を超えた時期もありました。しかしながら、

昭和四十八年のオイルショックにはじまり、二百海里問題と続けざまに荒波が襲いかかり、経営困難・廃業・廃船へと追い込まれ、昭和五十八年には稼働隻数は九隻、現在ではその数三隻となっております。日本人乗組員の平均年齢も五十歳を超え三十年前より十歳程高くなっており、日本の第一次産業の縮図を垣間見る気がいたします。とは言っても当地は「日本一の鰹節の町・枕崎」であります。水産業に携わる方々の高齢化、後継者不足、魚価の乱高下、原料調達の問題等、数え上げれば枚挙に暇がありませんが、会員皆様の若い創造力と英知でもって一致団結すれば、新たな道も開くものと思っております。

先に行なわれた「アベノミクス解散」では与党が信任を得た形となりましたが、その波及効果は地方にとつて、取り分け大資本・大企業以外は、その実感はないと言われており、今後、安倍内閣の手腕に期待を寄せ、結果を注視したいと思っております。

最後に、青鰹会皆様の更なる活躍と業界の発展を祈念しあいさついたします。



”かつお”か”かつお節”か



枕崎市長
神園 征

皆さんもよく経験する事だろうと思いますが、われらが故郷を他郷の人に紹介するとき「〇〇のまちです」という言い方をする場合があります。その時、〇〇の部分に何という言葉を入れますか。

人それぞれ、お定まりの文句があるのだろうと想像します。市の観光パンフレットや看板などによく使われているのは、「太陽と黒潮のまち」とか「かつおのまち、枕崎」などが多いようです。

ところが「太陽と黒潮のまち」は、あちこちの町で幾つも見かけます。これに「太陽と〇〇の町」になると更に多くなります。太陽は晴れた日ならば何処にでも照るし、〇〇には各々の土地自慢を入れれば簡単にその「まち」のキャッチ・フレーズが出来上るわけです。彼方此方（あっちこっち）でよく見かけるといふことは、どこの町もキャッチ・フレーズに苦勞しているのでしょうか。

ところで、或る訪問先で枕崎のことを尋ねられて色々話す中で「かつおの町ですよ」と言うと、先方は怪

訝そうに「かつおの町は高知じゃないんですか」と問い返しました。

このような例は案外、これまで幾度も経験しました。ですから最近では「かつお節の生産量は日本一の町です」と答え、それから、嘗て（かつ）は台風銀座と呼ばれていた時代があったことや、他の産業のこと等に話題が拡がっていきます。

かつお節の歴史は当然かつお漁の歴史にもなります。興味を示して深く質問してくる人も多く、答え乍ら（しばしば）メッキがはげないか心配する事も屡々（しばしば）です。もつとじつくりと勉強しなければいけないと思うのですが、暇ができればできたで暇を消化するのに時を食うことが多く、この生来の怠け癖も困ったものですが今更勤勉になるのは仲々のようです。

来年は、フランスの「かつお節工場」建設の話題が尚更強まるでしょう。

諸君が足を運ぶところで「かつお節」について聞かれることも益々増えるでしょうから頑張つて「枕崎鰹節」の名を高めましょう。私も宣伝に努めます。

話を転じます。

先般、北海道の某市から市議会議員二名が視察に見えました。私は最初だけ挨拶にでたのですが、その際に茶節の話をしました。

「後程、茶節を準備させますから、旅と勉強の疲れを癒（い）して下さい」と言つて休憩の時に召し上つていただいたところ「おいしい、く」と大好評でした。そのせいかどうか昼食は知覧で予定していたらしいのですが、枕崎で済ませてから知覧に向かうことになりました。

因みに、催しの時にサービスする茶節は、茶は使わずに白湯で味噌を溶いているようですが、本来はお茶で溶いてこそその茶節です。遠来の議員さん達には本来の茶節をふるまつて茶の宣伝までしておきました。

これからも大いに枕崎の産物を宣伝していきましょう。

平成26年度 青鯨会事業報告

1/24～25 研修旅行

全鯨青沖繩大会の前日から、私たち青鯨会は、鯨節消費量全国一の地、沖繩にて研修旅行を行いました。鯨節工場の見学、美ら海水族館、首里城、旧海軍司令部壕を訪れました。鯨節業界の繋がりを実感し、沖繩の歴史を感じ、戦後日本の平和に感謝し、和やかに研修旅行を終了しました。



1/25 全鯨青沖繩大会

平成26年1月25日(土)那覇市の沖繩県男女共同参画センターにいるるにて、第39回全国鯨節類青年連絡協議会・沖繩大会が開催され、枕崎青鯨会員が参加しました。

39回目にして初めて沖繩の地で開催された本大会スローガンは『誇り／＼すべての人のこころに鯨節』。

鯨節のキャラクターである「カツシカツオくん(カツくん)とカツブシカツコちゃん(カコちゃん)」を制作していただいた故やなせたかしさんの黙祷から始まり、会議、懇親会では、カツくんも登場。講演会や懇親会を通じ、沖繩の食の素晴らしさを知り、鯨節の魅力を再認識し、業界に携わる全国各地の方々と時を共有しました。

4/4 青鯨会通常総会

5/4～5 かつお祭り

こどもの日と初鯨の時期が重なることから、こどもの健やかな成長を枕崎特産の縁起魚「カツオ」にあやかろうと始められたかつお祭り。青鯨会では例年通り、削り節大会を開催し、好評のうちに終わりました。

6/16 枕崎水産加工業協同組合役員との懇談会

青鯨会の親組合である枕崎水産加工業協同組合の組合長はじめ役員の方々と、組合事業各種の現状と今後の取り組みについて意見を交わし、充実した懇談会となりました。



8 / 2 / 3 『さつま黒潮きばらん海』港まつり

8月2日・3日、台風接近により天候が心配されましたが、予定通り『さつま黒潮きばらん海』港まつりが開催されました。青鯉会では毎年恒例、2日に鯉節を使った料理の無料配布を、3日に神輿を担ぎ、担当委員会のリーダーシップのもと青鯉会員が団結し、活気溢れる港まつりとなりました。今年の無料配布メニューは冷たいそば、おかかごはん、冷奴、鯉ポテト、鯉竜田揚げ。どの料理も調理が追いつかないほど好評で、来場者の皆様にも喜んでいただけたと思います。また、鯉節削り体験や「枕崎鯉節」ロゴ入り風船の配布も好評で、昨年に引き続きブシダーに会いに来てくれる子供たちや写真撮影を待つ子供たちがいる等、人気も定着しているように感じ、大盛況のうちに終わりました。3日は枕崎水産加工業協同組合職員と青鯉会、そしてブシダーも一緒に神輿を担ぎ、事故やケガもなく一年の大漁と鯉節業界の更なる発展を祈願しました。恒例のかつおパックの無料配布も大盛況で、今後も祭りを通して「枕崎鯉節」が活気付くことを期待します。



9 / 12 枕崎産地入札即売会



9月12日、枕崎水産加工業協同組合入札会場にて、産地入札即売会が開催されました。依然魚価は乱高下し、出品数量の減少傾向は変わらない状況ですが、組合員・青鯉会会員が一丸となり、枕崎に益々活気を呼び込む気持ちで頑張りました。

10 / 3 / 5 「九州うまいもの大食堂」

天神中央公園にて開催された、九州・沖縄のグルメがそろった「九州うまいもの大食堂」にて、若鯉会が中心となり、枕崎水産加工業協同組合として出店しました。九州・沖縄の「うまいもの通」になろうというコンセプトのもと開催された同イベント。会場では3日間で来場者数10万人を超える幅広い世代の来場者へ、かつぶしかつおの力も借りて鯉節やかつお加工品のPRをすることができました。



青鯉会食育活動報告

枕崎青鯉会の食育活動は、食育担当委員会を中心に、全国鯉節類青年連絡協議会の主要活動である食育事業を毎年推進しております。

今年の募集を幼稚園・保育園・小学校・中学校と範囲を広げ取り組みました。主に、鯉節の製造説明、鯉の人形を使った解体説明、削り体験、茶節試飲と希望によっては鯉生切り解体や鯉節あるあるクイズ大会を行いました。以下に、詳細を記します。



5/17(土) 別府保育園
鯉の人形を使った解体説明、削り体験、茶節試飲
園児数85名

5/24(土) 枕崎保育園
鯉生切り解体、鯉節の製造説明、削り体験、茶節試飲
園児数80名

7/30(水) 第2富士保育園
鯉節の製造説明、鯉の人形を使った解体説明、削り体験、茶節試飲、鯉節あるあるクイズ大会
園児数50名





11/16(日) 医療法人ラフォーレ森産
婦人科主催。子育て支援バ
ザーに参加
鯉節の製造説明、鯉の人形を
使った解体説明、削り体験、茶節
試飲
参加対象…乳幼児、幼児、保護
者、一般

11/23(日) 枕崎市立桜山小学校のバ
ザーに参加
鯉節の製造説明、削り体験、茶
節試飲
参加対象…在校生、保護者、一
般

11/30(日) 枕崎市立枕崎小学校のバ
ザーに参加
鯉節の製造説明、削り体験、茶
節試飲
参加対象…在校生、保護者、一
般



上記の日程で執り行いました。
改めて思う事は、削って食べる
子供たちの反応を目の当たりにし
て我々、作り手の使命を実感させ
られました。

また、本事業すべてに参加いた
だいた青鯉会会長をはじめ第一委
員会メンバーや他会員のご協力を
もちまして、事業がご盛会に終わ
ることができました。有難うござ
いました。





二〇一五年度
青鯨会会長
立石 康隆

平成27年度の青鯨会会長を務めさせて頂きますダイイチ立石です。

先輩方がまだ残っている中、恐縮ではございますがこの大役を果たしたいと思えます。

水産加工組合および関係各社の皆様には昨年同様のご支援、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

今年度4月からの活動計画と致しまして、昨年同様に枕崎鯨節のPR活動、食育事業を軸に産地入札会、地域との交流、みなと祭、などの活動をしてまいります。

最後に会員の皆様へ、青鯨会に対する思いは一人一人違うと思えますが、私はこの会を通じて様々な人と出会い、色々なことを学びました。この会の活動を通じて会員の皆様が一いつになればこの青鯨会はもっと素晴らしい会、業界発展になると思えます。

1年間宜しくお願い致します。



一年間ご苦勞様でした



若鯨会会長
立石 英隆

若鯨会会員の皆様、お疲れ様です。若鯨会に入会して7年、まさか会長をするなんてと驚きましたが、会員の皆様一人ひとりのご協力を頂き、なんとか務めてきました。心より感謝申し上げます。

活動報告としましては、毎年恒例のイベントが5月かつお祭り、8月港祭りだけと少ない中、10月に福岡の天神中央公園で初開催された、「九州うまいもの大食堂」に出店させて頂きました。飲食メインのイベントだったので、鯨の腹身の串焼きをメインに、鯨パック詰め放題、鯨の角煮や鯨みそなどの鯨加工品の販売、鯨節の削り体験などを行いました。全鯨青のキャラクター、かつぶしかツクンも連れて行き、子供達や女性に大人気で、良いPRになったと思えます。

初開催のイベントで、集客数など不安でいっぱいでしたが、3日間で来場者数10万人を超える大盛況で、3日目の午前中にはすべて完売しました。鯨節の削り体験にも小さな子供から大人まで沢山の方に並んで頂

き、食育という意味でも大成功だったと思えます。

最後になりますが、会員の協力あつての会だと思えますので、3月までご協力宜しくお願い致します。そして、次年度会長(有)マルチヨウ松野下亮君のご協力も引き続き宜しくお願い致します。

